

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成
-----------	--

山梨県立笛吹高等学校校長 井上 孝悦

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をととして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	2. 日々の教育活動をととして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。		B	概ね達成できた。(6割以上)
	3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。		C	不十分である。(4割以上)
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。		D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(2月 7 日現在)
		具体的方策	方策の評価指標
1	学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫	単元などをまとまりとした評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。	【授業アンケート】 【評価シートの活用状況】
		「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観等を通し、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。	【授業アンケート】 【相互授業参観の状況】
		年度当初の二者面談や「今未来手帳」の活用を通じて、学習状況等の把握に努める。また、生徒に学習目標を持たせ学習意欲を喚起する。	【今未来手帳活用状況】 【二者懇談の機会の確保】
2	良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫	挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じて、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的マナーを身につけさせる。	【登校指導の実施】 【学年・学科集会など様々な場面での指導】
		学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。	【部活動の活性化】 【学校生活の充実感】 【地域交流の活動状況】
		教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。	【教職員間の情報共有】 【保護者への情報発信】
3	各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践	「総合的な探究の時間」「LHR」「産業社会と人間」等を活用し、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	【計画的な進路ガイダンスの実施】 【地域社会への関心度】
		インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての職業観を養い、将来の職業選択の基盤を作る。	【事前・事後指導の充実】
		土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。	【多様な学習機会の提供】
		生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	【各種便り、HP等の充実】
4	具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む	地域の外部行事を積極的に伝達するとともに、その行事等を企画の段階から自主的に取り組み、社会参画の場面を工夫し、成就感や自信が持てる実践的な取り組みを行う。	【生徒会活動の充実】 【広報活動の充実】 【笛吹市との包括連携による活動】
		ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。	【フェスタ笛吹への主体的な取り組み】 【外部への積極的なPR】

学校関係者評価	
実施日(4年 2月 15日)	
評価	意見・要望等
4	・ICT教育については、生徒は十分利用しているようだが、学校以外の自学については、教師・生徒・保護者とも不十分と感じている。三者懇談などを活用し、学ぶ事の楽しさを伝えてほしい。 ・教員アンケートよりコロナ禍で多くの制約があった中、相互授業参観等が積極的に行われ、互いに学び合う場を持つ事はすばらしいと思います。 ・生徒アンケートより、ほとんどの項目を8割以上の生徒が肯定的に授業についてとらえている事がわかりました。先生方の日頃からの継続した御指導の成果であると思います。 ・R3年度はオンライン授業を余儀なくされたが、そのメリットをもっとプラスに評価してもよいのでは？オンラインの方が授業を身近に感じられたり、主体的な参加に繋がった生徒もいるのではと思われる。ICT活用を8割強の生徒がプラス評価しているのは、先生方の努力の賜物。 ・「今未来手帳」の活用について評価が低いのはなぜか？意欲だが、手書きのわずらわしさが記入のプレーキとなり活用に繋がらないのでは？アナログツールの良さ、手書きしながら自分と向き合う時間を作る経験等、積極的に伝えていき自己理解やキャリアパスポートとして活用してほしい。
4	・生徒個々の成長を願い、日常生活の中で日々意識してご指導されている事がよく伺えます。 ・対面で指導する機会が制限される状況下で、最善を尽くされようとしていらっしゃる様子がうかがえました。 ・資料P1、P2では肯定的な結果だが、P4ではC評価となっている。コロナの影響で、情報共有、発信が不十分だったのでは。 ・登校指導・集会等における生徒指導が高い評価を得ているのは、生徒との信頼関係があるからであり、素晴らしいこと。一方でいじめの未然防止・早期発見の取組については、生徒と教職員の間にズレがあり、生徒は満足していないのでは？年3回のいじめアンケート後の個別対応は必須事項である。今後は生徒全体に向けた予防的アプローチ、人を傷つけない「いじめ」行為そのものについての理解を深めさせること、ストレスマネジメント教育、相談力のスキルアップなど考えられないか。
3	・コロナ禍でキャリア教育関連の実践が思うように出来なかった事と思います(先生方のアンケートからも肯定的な意見が中間比較からも下がっている事からも想像されます)。これは仕方のない事だと思います。在校生には次年度何とか様々な実践が実施できることを祈っております。 ・自分の将来を見据えたキャリアアップのための取組がよくできている。 ・コロナ禍で、インターンシップ等の体験型のキャリア教育が中止になったのは残念だった。しかし、こんな時こそ自分の適性や興味関心を分析して、将来の進路をじっくり考える時間が作れる。情報提供と自己理解がうまくマッチした先に、主体的、かつ適切な進路選択があると考える。
4	・「ふれあいマルシェ笛吹」では、コロナ禍でも出来る工夫した取組を見せて頂きました。参加している生徒の生き生きと活動している姿がとても印象に残っています。 ・笛吹市との連携した活動やふれあいフェスタ等を活用した地域へのPR活動に見るべきものがあった。 ・「ふれあいマルシェ笛吹」では、短時間ながら来場者へ甲斐甲斐しく接する在校生と「里帰り」で教職員と語らう卒業生の姿が印象的でした。 ・ふれあいマルシェ笛吹に参加させていただき、生徒が積極的に地域の人たちと交流する姿に頼もしさを感じた。コロナ禍で地域行事の中止が相次ぐ中、実施にこぎつけた生徒、教職員、その他の関係者各位のご尽力に感謝し、その成果は高い評価に値すると思う。